

令和2年第1回定例会総体質問通告事項

2 月 28 日 午 前	前 田 孝 人 議 員（尾道未来クラブ）	質問方式：一括質問方式
	<p>1 新年度予算について</p> <p>(1) 大型事業の借金返済で厳しい財政運営、今後の見通しは</p> <p>(2) 尾道市の目指す「スマートシティ」構想は</p> <p>2 尾道市のコンプライアンスは</p> <p>(1) 平谷市長はコンプライアンスをどのようにとらえているのか、またその認識は</p> <p>(2) 尾道市のコンプライアンス態勢の確立は</p> <p>3 旧市街地の久保・長江・土堂小学校の統合問題</p> <p>(1) 当該小学校の児童や保護者、また地域住民や学校関係者等に大きな波紋を広げ、不安と動揺を与えた。しかしこれをわずか3カ月で撤回するという大失態。お粗末と言わざるを得ない。教育委員会の責任は重いものがある。教育長はこの点をどう受け止めているのか</p> <p>(2) 土堂小は市役所旧本庁舎を減階というか解体撤去し2階建てとし、耐震補強を施し仮設校舎とし活用すべきだがどうか。今後の方向性も示さないなかで、4年間で8億円かけて3小学校すべてに仮設校舎を建てるといふ。市中心部の小・中学校の方向性を早急に打ち出すことが先決である</p> <p>(3) 3校を統合し新設する場所、通学校への転校や仮設校舎の建設場所に議論や関心が集中しており、本来の教育という観点がか全く論議されていない。新しくなる学校の児童実態と目指す教育、受け継ぐべき教育遺産はどのように考えているのか。また優れた教育研究や実践は維持、継続されるのか</p> <p>4 ライフラインである水道事業の今後の方向性「水道広域連携」</p> <p>(1) 市民から高いと言われている尾道市の水道料金。今後は人口減少や節水意識の高まり等で水需要が減少し経営もますます厳しくなる。将来にわたって水道水を安定的に供給するという使命のためにも、この度の広島県の「水道広域連携」に参画すべきであるがどうか</p>	